



理事長 真田光彦

ごあいさつ

平素は格別のご愛顧とご支援を賜わり厚くお礼申し上げます。

ここに当金庫の第77期の事業概況ならびに決算状況をご報告申し上げます。

2020年度の日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、人々の暮らし方や働き方は大きく変えられ、あらゆる経済主体が翻弄されたことにより、GDPの落ち込みはリーマンショック時をも上回る結果となりました。先行きについても、感染拡大は長期化することが予想されますが、感染拡大防止と社会経済活動の両立に向けた試行錯誤が繰り返されることで、社会全体の新型コロナウイルス感染症の対応力が高まり、経済レベルは徐々に引き上げられていくことが見込まれます。ただし、感染拡大の状況次第では、内外経済を下振れさせるリスクは十分注意する必要があります。

2020年度は、「かわしん『共創力』発揮3か年計画」の最終年度に当たり、お客さまと共に豊かな地域の未来を創り上げ、地域金融機関としての強固な経営基盤と確固たる地歩を確立するための諸施策を進めてまいりました。

その結果、業容面で預積金の期末残高は8,531億円、貸出金は4,016億円となりました。

収益面では、業務純益は855百万円、経常利益は840百万円、当期純利益は843百万円を計上し、自己資本比率は10.94%、不良債権比率は2.61%となりました。

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、今後の経済情勢は極めて不透明であり、金融機関を取り巻く環境はさらに厳しさを増すことが見込まれます。しかしながら、いかなる状況においても、「地域に密着した課題解決型金融」を推進するため、役職員一丸となり、地域経済への貢献に積極的に取り組み、地域と共に持続的に成長する信用金庫を目指してまいりますので、今後とも皆さまのご愛顧とご指導ご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。

2021年7月
理事長 真田光彦